

「『沼津^{たいし}大志学習』プラン」策定

沼津の子どもたちが、大志（社会のために役立とうという目標）を抱き自己実現を図っていくために、平成 25 年 3 月、沼津版キャリア教育指針「『沼津大志学習』プラン」を策定しました。

○「『沼津大志学習』プラン」策定の背景

現在、若年層の就業意識の希薄化が社会問題となっており、子どもたちが、自分の将来像を具体的に描くことができないために、学ぶことの意義が見出せない、学習習慣が身に付かないなどの問題が指摘されています。このような状況を打開するため、国ではキャリア教育の推進を求めています。

沼津市では、「沼津市教育基本構想」の下、キャリア教育を学校教育の柱の一つに位置付け、体験活動や交流活動などを通して、子どもたちが社会的自立・職業的自立に向けた一歩を踏み出す学習を進めてきました。

一方で、キャリア教育という言葉が分かりにくいいため、学校により実践の内容・水準に差が見られ、特に小学校ではキャリア教育を実践しているという意識が希薄である、という課題を受けて、平成 25 年 3 月に「『沼津大志学習』プラン」を策定しました。

○「『沼津大志学習』プラン」の概要

■目的

沼津独自のキャリア教育の理念をつくり、小・中学校教職員が共通認識の下で沼津版キャリア教育を実践していくことを目指します。

■対象

沼津市立小・中学校教職員

■特徴

特色ある沼津独自のキャリア教育指針であり、県内でもこのように体系付けた例は無い

- ①明確で分かりやすい内容
- ②小・中学校の9年間連続したキャリア教育指針
- ③「ことば」を重視したキャリア教育
- ④市民協働で推進する体験活動

■名称の由来

- ①「沼津市教育基本構想」において、「夢ある人」を「大きな志やビジョンを持つ人」としているところから、社会のために役立つ目標という意味の「大志」の二文字を取り、「沼津大志学習」と名付けました。
- ②新渡戸稲造氏が西浦の興農学園設立を祝って書いた「Boys, Be ambitious.」の額の複製が、市内の中学校に掲げられ、毎日子どもたちはこの額を見ながら勉強に励んでいます。

「沼津大志学習」プラン

■特徴

①明確で分かりやすい内容

授業を通して知・徳・体をバランスよく育み、交流や体験を通して自ら進んで人と関わろうという態度を伸ばすことにより、大志を抱いて、自分らしい生き方を実現しようとする子どもを育てていきます。

＜「沼津大志学習」の活動例＞

- みんなのために働く経験を通して、働くことへの関心を高める係活動や清掃活動
- 遊んだり学習したりする中で、上級生が下級生の世話をを行う異年齢集団活動
- 問題を解決するために、学校外へ出て、様々な人たちにインタビューする体験学習
- 福祉施設や幼稚園へ出掛け、好ましい人間関係の作り方を身に付ける交流活動
- 働くことを通して、人への接し方や自己理解を深める職場体験活動

②小・中学校の9年間連続したキャリア教育指針

「沼津大志学習」の理念を小・中学校が同一歩調で教育課程に位置付けていくことにより、子どもたちの学びを9年間連続させることができます。

③「ことば」を重視したキャリア教育

言語教育で育てている「ことば」を大切にしたコミュニケーション能力を生かした交流活動や読書による間接体験、沼津の教育資源を生かした様々な体験活動を通して、自ら進んで人と関わろうという態度を伸ばします。

④市民協働で推進する体験活動

子どもたちが、地域の方々や事業所や団体などの協力の下、様々な人々との交流を進めるために、「(仮称)『沼津大志学習』協力者会議」を新たに設置し、本プランの意義を共有していただくとともに、ものづくり体験や職場体験、地域との交流などの受入先の拡大を図ります。

※興農学園

興農学園は、昭和4年、西浦村久連（現沼津市西浦久連）に設立され、キリスト教主義に基づき農業教育を行った学校である。久連に農場を所有していた渡瀬寅次郎の遺言により、内村鑑三・新渡戸稲造ら渡瀬の旧友たちの尽力で設立され、デンマークの国民高等学校を模範として、共同生活の中、全国から集まった青少年たちが農民の実生活に即した教育を受けていた。その後、戦時中、学校は18年に閉鎖され、戦後、農業研究所として昭和30年代まで施設は使用されていたが、現在は財団法人として存続はしているものの、福祉法人の農場として一部が使用されるのみで、往事をうかがい知る痕跡はほとんどない。

「Boys, Be ambitious」の額は、昭和4年の開校式の際、新渡戸稲造が学園のために揮毫したもののだが、のちに北海道大学に寄贈された。沼津市の市立中学校には、この額の複製が飾られている。